

逗子の住宅

株式会社後藤武建築設計事務所 後藤 武

神奈川県逗子市の山の尾根の土地に夫婦二人と猫が二匹、仕事をしながら生活する場の計画である。尾根の地形に合うかたちを追求した結果、直方体の箱を二つ積み重ねて二方向に1820mmずつずらすことにした。上の箱はナインスクエアグリッドに分割して3層の大梁が二次元で接して立体的に積層する。下の箱はナインスクエアグリッドとは910mmずらして、本棚によって空間を仕切ることにした。上の大梁と下の間仕切り家具がずれていることで、箱は室内で無数に分解されつつ、ずれによって空間同士が立体的に多様な結びつきを生み出す。閉じた箱であるにもかかわらず、どこまでも続いていくような矛盾した感覚も与えてくれる。ジュゼッペ・テラーニが鉄筋コンクリートで行った梁の構成をピラネージ的迷宮へと深化させ、それを木造に置き換えて現代日本の森の中に着地させようとした試みである。下の箱が主に人間の棲家であり、上の箱は猫と光が微睡む領域だ。抽象的な幾何学の中に、猫や光、植物や火といった野生に属する要素が混じりあう。野生の幾何学が、ここに立ち上がる。



ダイニングから屋外テラスを望む。屋内の上空には大梁が交叉し、そこにトップライトから光が注ぎこむ。